

活動通して「対話の文化」感じる日々



羽鳥駅近くで美容室を営む義母を通じて、以前から小美玉市やみのゝれの活動に注目し、縁あって現在は「まなびtoプラス」の企画メンバーとして活動中。つくば市在住の遠藤友宏さんにインタビューします。

話の中の人に 出会える喜び

筑波メディアカルセンターで広報を担当。経験は全く無く、文章を書くのが苦手だったという遠藤さんが前向きになれたのは、当時の上司のおかげと言います。広報の仕事が楽しくなり、病院の仕事以外にもPR TIMES（プレスリリースの会社）のエンジニアリスト（伝道師。茨城県内では遠藤さん1人）として活躍しています。

今もバイブルは広報おみたま。常にデスクに常備し、参考にしていくそう。妻の実家に遊びに来た時、たまたま近くで「まる市（マルシェ）」をやっている、そこに広報おみたま担当の代々城さんが取材に来て知り合いました。「広報おみたまを作っている人に会えて嬉しかった」という遠藤さん。「その時は『ま

なびtoプラス』で代々城さんと一緒に活動することになるとは思ってもみませんでした」と振り返ります。

みのゝれで、新聞記者を講師にしたプレスリリースセミナーに参加したのが1年前。単に講師の話を聞くだけでなく、同じテーブルの人とコミュニケーションしながら進めるスタイルでした。「みのゝれが『対話の文化の拠点』というのはいくらもありません」と感じ、今の「まなびtoプラス」の企画につながっています。

「まなびtoプラス」は「学びと人の交流を生み出す」をミッションに、学び場づくりを年4回企画しています。これまで「初めての企画書作成セミナー」「インスタグラムでの集客セミナー」を実施。参加者からは「会社で教育を受ける機会がなくありがたかった」「次はやりがいのある職場づくりについて学びたい」

みのゝれ研修企画チーム「まなびtoプラス」

えん どう とも ひろ
遠藤 友宏 さん

みのゝれと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.210

などの感想が寄せられ、リスティング（学び直し）需要の高まりを感じたところでした。活動を始めてから、みのゝれや小美玉の歴史や背景をもっと知りたいと思うようになってきて、みのゝれに関わるきっかけを作ってくれた義母に教わっているそう。「お義母さんに小美玉市内を案内し案内してもらわないといけないですね」と笑顔で話してくれました。

4年前の自身の結婚式。「披露宴出席者全員でおみたまヨーグルトで乾杯したんです。ヨーグルトで乾杯した例を作っちゃうなんて面白いまちだなと思いました」。義母の話の中で聴いていたみのゝれで活躍する人たちに、リアルで出会い続けている日々。「この1年で知り合いがかなり増えました」と遠藤さん。これからもたくさんの人に出会って、活動を広げてください。（藤田佐知子）